

 <h1 style="text-align: center;">福山平成大学</h1> <h2 style="text-align: center;">FDニューズレター No.13</h2> 	<p>発行：福山平成大学 FD推進委員会 〒720-0001 広島県福山市御幸町 上岩成正戸 117-1 084 (972) 5001 (代) fd@heisei-u.ac.jp</p>
---	---

目 次

平成 28 年度授業公開について	1
授業公開：企業実務B～アクティブ・ラーニングに向けて～（経営学科 小玉 一樹 教授）	2
平成 28 年度FD研修会報告 ～立命館大学 中川 洋子 先生をお迎えして～	
「大学におけるキャリア教育の現状と課題～立命館大学の実践事例の紹介を含めて～」	4
平成 28 年度FD講習会報告「実用統計講座」（経営学科 福井 正康 教授）	4
平成 28 年度学生による授業アンケート調査結果	5
FD関連図書コーナー新着案内	10
平成 28 年度FD推進委員会活動記録	11

平成 28 年度授業公開について

近年「アクティブ・ラーニング」に関心が高まり、その重要性・有効性が論じられることが多くなってきています。しかし、有効性は十分わかるが、具体的にアクティブ・ラーニングをどのように授業に取り入れるのか、授業をどのように進めればいいのかなど、なかなか踏み込めない方も多いのではないのでしょうか。

そのような中で、本学の経営学部経営学科 小玉一樹教授は、以前からアクティブ・ラーニング型の授業を積極的に取り入れ、その成果をあげています。そこで、FD推進委員会では今年度、小玉教授の授業の1つである「企業実務B」を、10月から12月にかけて4回にわたって公開していただき、教員が見学できるようにすることを企画しました。

小玉先生にはお忙しい中、この企画を快くお引き受けいただき、感謝申し上げます。

授業は毎回、地元企業2社の若手社員に、会社の紹介、自分のキャリア、就職についてなどの話をしていただき、それに基づいて学生たちが質問やディスカッションを実施して、学生が能動的に授業に参加する形をとっています。

学生たちは事前にその会社について予習してきており、社員の方の話に熱心に耳を傾け積極的に質問する様子からは、授業の成果が感じられました。そのような緊張感あふれる授業を見学して、授業の進め方や構成、ファシリテートの方法など、多くのことを学ぶことができる大変有意義な授業公開でした。



授業公開：企業実務B

～アクティブ・ラーニングに向けて～

経営学部 経営学科 教授 小玉 一樹

1. 授業概要

本授業は、企業実務 A および B という通期型授業であり、履修者は前期・後期ともに履修している学生がほとんどである。授業内容は、経営学科独自のキャリア教育志向が強い授業である。

学生のキャリアに関する教育は「学生主導型の能動的学習」(以下「AL」:アクティブ・ラーニング)との親和性が高いと考えられるため、本授業においても年間を通じてAL型授業を取り入れた。具体的には、映像や配布物、それに関連した講義のインプット授業ーグループによる議論・発表ーアウトプットとしてのレポートなどの課題の提出を試みた。

また、実際の就職における選考においても、グループディスカッションが用いられていることから、本授業でのグループワークはそれらの事前体験ともなると考えられる。



2. 授業のねらい・特色

本授業の目的は、第一に、働くことに対する意識を高め、就職活動解禁日からすぐに行動に移すことができるように指導することである。昨年から、本学でも就職活動解禁日には出陣式を行うようになった。春休み中にもかかわらず数多くの3年生が参加し、その後の合同企業説明会にも多くの学生が参加している。しかしながら、解禁日以降も、何をしてもよいかわからない学生も多いのも事実である。年間を通じて、働くこととはという疑問を少しでも解くことができれば、早期に就職に対する活動に移すことができるのではないかと考える。

第二に、社会で求められる社会人基礎力¹(「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」)の向上を目的としている。近年、学生の対人能力の低下が問題となっている。実際に学生の日常行動を観察していると、運動部などのクラブ活動に属していない学生のほとんどが、自宅と大学、アルバイト先の往復に明け暮れている。話を聞いてみると、日常は2～3人の大学の友達と話しをするだけという。つまり、これらの学生のほとんどが、集団の中で自分の意見を主張することや協働して何かをやり遂げることは経験していない場合が多い。社会で働くこととは、集団に属し、そのメンバーと協働し目的を成し遂げることに他ならない。こうした力を養うことが必要である。

第三に、自己理解を深めることを目的としている。自分には何ができそうか、自分はどういうことと興味があるのかなど、自分が何者であるかを知る機会にしたいと考えている。これらの目的を達成する為に、キャリアプログラムとともにグループディスカッションを多用しながら、自分と違う価値観を認めながら、自己理解を深めていこうとするものである。

3. 授業の進め方

今期の授業計画および実施した内容は以下のとおりである。

<前期授業>

- (1) 自分が何者であるかを知ること (自己分析)
- (2) グループワークを中心とした議論 (思考力・協働力)
- (3) 自らの考えを表現すること (思考力・発言力)
- (4) その他、議論のための課題 (最近の話題から)

¹ 経済産業省 (2006)

※使用したツールなど

①グループワークに関する DVD

②就職活動に関する DVD

<後期授業>

前期授業の結果として、学生は、自分の興味関心がどこにあるのか、協働することで自分自身を見つめなおし、どのような職業に就くのが良いのかを、少しずつ理解し始めている。そこで、後期授業では多種多様の業種から 12 社の企業の人事部の方々のご協力をいただき、その会社の説明だけでなく、参加いただいた講師自身の就職に至る経緯や現在の職務、将来キャリアの方向性などについて語っていただくことにした。

後期授業の開始後半は、12 社に関する企業研究をグループワークとして取り組み、グループごとに会社紹介と、研究を行った企業に対する質問事項の事前発表会を行った。これらの企業研究終了後は、一回の授業で 2 社ずつ各企業の人事担当者にご登壇いただき授業を行った。



4. 講演いただいた企業の名称

今期の企業実務 B では、以下の 12 の企業の主に人事部門の方々にご登壇いただいた。

それらは、「野村證券(株)」「(株)フレスタ」「(株)自重堂」「両備信用組合」「(株)エブリィホーミーホールディングス」「備後漬物(有)」「(株)ププレひまわり」「理研産業(株)」「ツネイシLR(株)」「(株)キャステム」「コムパス(株)」「(株)天満屋」の主に人事部門の社員であり、中には「ツネイシLR(株)」や「コムパス(株)」のように企業の第一線で働く社員にもご登壇いただいた。企業の担当者の中には、自分の仕事を語ることや、学生を知る上で良い勉強になったという声も聞かれた。

5. 得られた教育効果

1 年間の授業全体を振り返ると、グループごとに議論を深めるためにはどのような方法が効果的か、欠席が多い学生をグループワークにいかに参加させるかなど、課題も多い。しかしながら、前期授業では学生が発表する、後期授業では質問することによって、働くことや企業に関する疑問を解消しようとする傾向がみられた。

就職活動解禁を 3 月 1 日に控え、この時期に数多くのグループディスカッションを経験し、また多くの企業の方々と接点を持つことは、学生の将来を考えると非常に貴重であると考えられる。

6. 今後のアクティブ・ラーニングに向けての課題・展望

今後の課題としては、学生を如何にグループワークに巻き込むかということに尽きる。教員が如何にファシリテートし、グループごとの議論を深めることができるかが重要である。そのためには、教員自らが議論を促す方法も学習しておくことが必要であろう。

最後に、今回参加いただいた企業の中には、大学教育に興味を持っていただける先も多く、次年度は、各企業の課題に学生の視点で取り組む考えである。具体的には、企業が持つ具体的な課題を説明し、それに対して学生はグループワークによって考え議論し、解決案を提示するという、「問題発見・解決型授業」である。すでに、次年度は前期、後期の各 1 社が参加を表明しており、シラバスにも掲載している。今後もこうした学生が能動的に授業参加できるような授業を展開したいと考えている。

平成28年度FD研修会報告 ～立命館大学 中川 洋子 先生をお迎えして～

大学におけるキャリア教育の現状と課題

～立命館大学の実践事例の紹介を含めて～

平成28年11月17日に本学3203教室で、本年度FD研修会が開催されました。研修は90分で、参加者は約60名です。今年は、講師に立命館大学の中川洋子先生(共通教育推進機構 教養教育センター副センター長・教授)をお招きして、「大学におけるキャリア教育の現状と課題～立命館大学の実践事例の紹介を含めて～」というテーマで、研修会を行いました。中川先生はキャリア教育や組織行動論がご専門で、この分野での第一線でご活躍されています。

研修会は約90分で、中川先生はユーモアをまじえた豊富な話題で、大学におけるキャリア教育のあり方や重要性、また立命館大学での多くの具体的な事例を紹介され、大変参考になりました。

講演後の質疑応答も活発で、聴講者の関心の高さが伺えました。

研修会後のアンケートには「グループワークの方法について大変参考になりました」「具体例が多く、大変興味深かった」などの多くの熱心な意見・感想が寄せられ、本学の今後の教育に生かすことができる内容の、充実した有意義な研修会でした。



平成28年度FD講習会報告

実用統計講座

経営学部 経営学科 福井 正康 教授

平成28年8月8日及び9日に、経営学科の福井正康教授によるFD講習会「実用統計講座」が、本学のコンピュータ教室で開催されました。



このFD講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生が中心になって取り組んでいただき、今年で9年目になります。今年、1日目が「基本統計」、2日目が「多変量解析」というテーマで、福井先生がご自身で開発された社会システム分析ソフトウェア「College Analysis」を用いて行われました。

参加者は福祉学科や看護学科をはじめ 多くの教員のみなさんで、授業改善に役立てようと、熱心に受講していました。

平成29年度にもFD講習会を企画する予定ですので、多数の方のご参加をお待ち申し上げます。

平成28年度 学生による授業アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 実施期間

前期：平成28年7月19日（火）～8月5日（金）

後期：平成29年1月17日（火）～2月5日（日）

(2) 対象科目

演習・実習等の科目を除く、全科目（履修者数5名未満の科目を除く）

(3) 実施科目数

前期：299科目

後期：255科目

(4) 実施方法

学修支援システム・セレッソを用いて、授業時間内に教員の指示に従って、学生が各自スマートフォンなどを通じて回答する。

アンケート集計結果は、科目毎に科目担当教員に返却。大学全体、学部・学科、学年別の集計結果は、各学部、学科に配布するとともに当FDニュースレター等で公表する。

(5) 設問

<授業に関する設問>

Q1-1. この授業の履修の決定や学習する際に、シラバス（授業概要）を読んだ

Q1-2. シラバス（授業概要）は、この授業の学習に役立った

Q1-3. シラバス（授業概要）の到達目標を達成できた

Q2. 受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった

Q3. この授業の進度は、適切だった

Q4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった

Q5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）

Q6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった

Q7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった

Q8. この授業は、有意義だった

<学生の受講態度に関する設問>

Q9. この授業にきちんと出席した

Q10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた

Q11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

Q12. この授業に対する1回あたりの平均勉強時間

(5) 回答方法

5段階評価 5：よくあてはまる

4：ややあてはまる

3：どちらともいえない

2：あまりあてはまらない

1：全くあてはまらない

(Q12. については、5：60分以上、4：60分未満、3：30分未満、

2：15分未満、1：全くしなかった)

(6) その他

科目担当教員の自由設問および自由記述欄あり。

2. 大学全体の結果 (図1)

(上段：前期、下段：後期)

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	平均値
Q1-1 シラバスを読んだ	19.5%	33.6%	28.7%	9.6%	7.6%	3.48
	26.8%	31.3%	27.9%	7.6%	6.3%	3.65
Q1-2 シラバスが役に立った	20.0%	32.9%	32.1%	8.0%	7.0%	3.51
	27.4%	30.4%	30.3%	6.4%	5.5%	3.68
Q1-3 到達目標を達成した	18.1%	33.5%	35.9%	7.1%	4.4%	3.55
	26.1%	31.4%	33.4%	5.3%	3.8%	3.71
Q2 到達目標・注意事項の説明	31.9%	39.1%	21.1%	5.3%	2.6%	3.92
	37.9%	35.5%	20.5%	3.8%	2.4%	4.03
Q3 授業の進度	40.9%	36.1%	15.9%	4.9%	2.2%	4.09
	43.9%	35.0%	14.8%	4.3%	2.0%	4.14
Q4 教員の話し方	44.4%	32.4%	14.7%	5.5%	3.0%	4.10
	46.8%	31.7%	13.7%	4.9%	2.9%	4.15
Q5 板書・視聴覚機器	40.4%	33.8%	17.1%	6.1%	2.6%	4.03
	43.6%	32.7%	15.8%	5.3%	2.6%	4.09
Q6 教員の説明・指導	41.7%	34.1%	15.6%	5.9%	2.8%	4.06
	44.0%	33.2%	14.8%	5.3%	2.7%	4.10
Q7 教室の環境・設備・機材	41.0%	35.5%	17.3%	4.2%	2.0%	4.09
	44.6%	33.4%	16.3%	4.0%	1.8%	4.15
Q8 授業は有意義だった	43.9%	33.4%	16.2%	4.2%	2.4%	4.12
	46.7%	31.7%	15.2%	4.1%	2.3%	4.17
Q9 出席状況	64.9%	25.4%	7.6%	1.7%	0.4%	4.53
	60.8%	26.9%	9.4%	2.5%	0.4%	4.45
Q10 受講マナー	58.3%	29.6%	9.7%	2.0%	0.4%	4.44
	57.4%	30.1%	10.2%	2.0%	0.3%	4.42
Q11 授業への取り組み	36.4%	33.6%	21.2%	5.9%	2.9%	3.95
	41.8%	33.8%	17.9%	4.4%	2.0%	4.09
Q12 平均勉強時間	21.9%	21.3%	21.3%	15.9%	18.5%	3.12
	22.6%	21.5%	20.7%	16.7%	18.5%	3.13

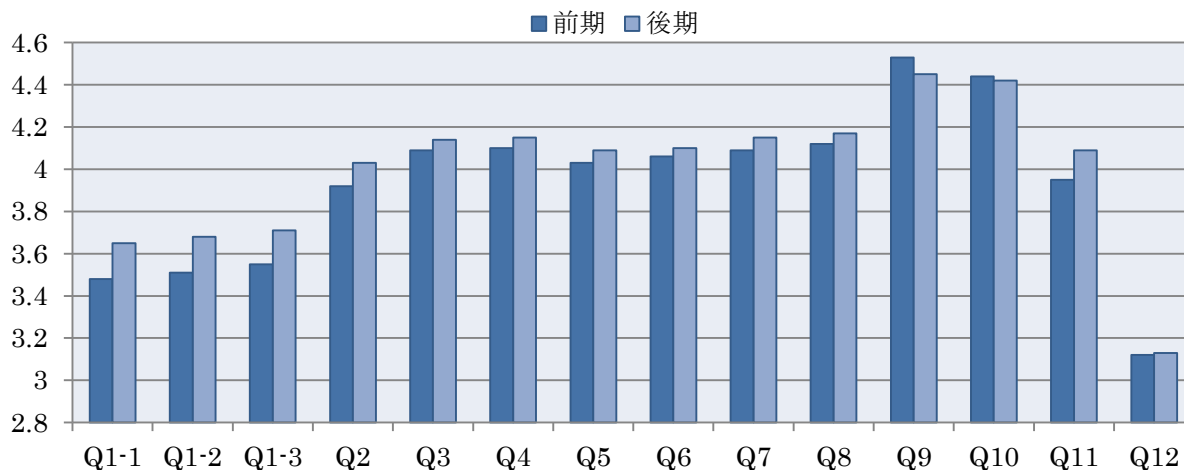


図1 大学全体の結果 (平均値)

3. 学年別の平均値 (図 2)

(上段：前期、下段：後期)

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1-1 シラバスを読んだ	3.45	3.43	3.60	3.61	3.48
	3.64	3.59	3.72	4.00	3.65
Q1-2 シラバスが役に立った	3.47	3.43	3.64	3.87	3.51
	3.67	3.61	3.78	4.06	3.68
Q1-3 到達目標を達成した	3.51	3.49	3.65	3.75	3.55
	3.69	3.66	3.80	4.08	3.71
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.96	3.84	3.96	4.21	3.92
	4.01	3.98	4.11	4.33	4.03
Q3 授業の進度	4.18	3.95	4.11	4.38	4.09
	4.15	4.09	4.22	4.35	4.14
Q4 教員の話し方	4.15	4.00	4.11	4.35	4.10
	4.13	4.13	4.18	4.36	4.15
Q5 板書・視聴覚機器	4.10	3.92	4.05	4.29	4.03
	4.11	4.05	4.13	4.27	4.09
Q6 教員の説明・指導	4.13	3.94	4.08	4.29	4.06
	4.11	4.05	4.16	4.30	4.10
Q7 教室の環境・設備・機材	4.15	4.00	4.10	4.35	4.09
	4.14	4.13	4.19	4.35	4.15
Q8 授業は有意義だった	4.14	4.06	4.17	4.32	4.12
	4.14	4.15	4.23	4.40	4.17
Q9 出席状況	4.56	4.54	4.47	4.43	4.53
	4.46	4.52	4.27	4.40	4.45
Q10 受講マナー	4.45	4.44	4.40	4.49	4.44
	4.43	4.44	4.33	4.50	4.42
Q11 授業への取り組み	3.86	4.00	3.96	4.17	3.95
	4.09	4.13	3.97	4.16	4.09
Q12 平均勉強時間	2.75	3.32	3.41	3.13	3.12
	3.03	3.25	3.05	3.40	3.13

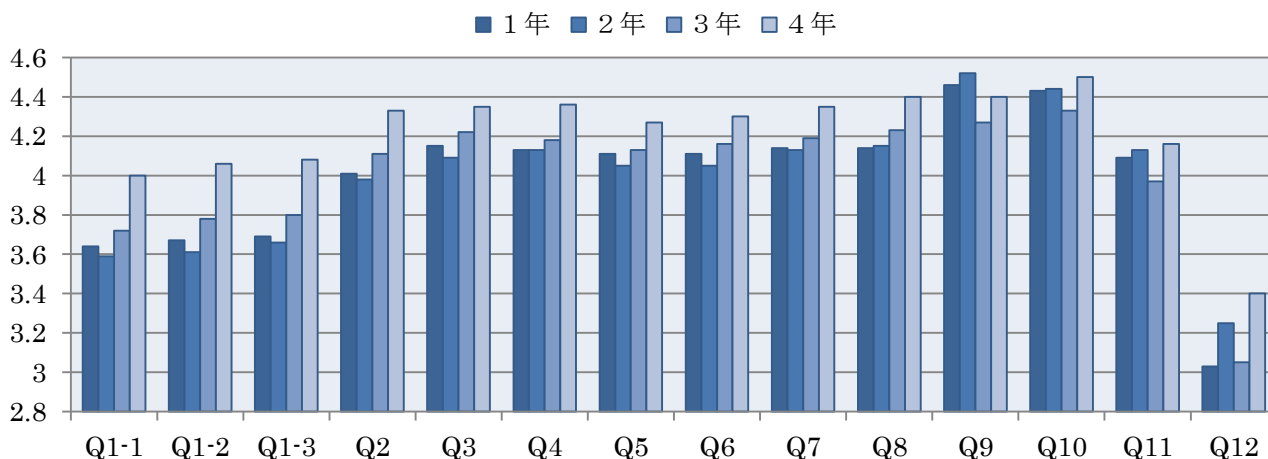


図 2 学年別の平均値 (28年度後期)

4. 学科別の平均値 (図3)

(上段：前期、下段：後期)

	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営	福祉	こども	健康 スポーツ科	看護
Q1-1 シラバスを読んだ	3.74	3.60	3.40	3.44	3.45
	3.96	3.75	3.47	3.64	3.60
Q1-2 シラバスが役に立った	3.75	3.61	3.44	3.47	3.49
	3.96	3.76	3.55	3.69	3.60
Q1-3 到達目標を達成した	3.71	3.59	3.44	3.53	3.54
	3.93	3.78	3.60	3.73	3.63
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.03	4.07	3.88	3.88	3.91
	4.15	4.13	3.95	4.07	3.93
Q3 授業の進度	4.10	4.14	4.07	4.05	4.10
	4.33	4.21	4.11	4.19	4.02
Q4 教員の話し方	4.07	4.17	4.04	4.05	4.14
	4.26	4.21	4.13	4.20	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	4.05	4.06	3.99	3.99	4.07
	4.25	4.14	4.06	4.16	3.96
Q6 教員の説明・指導	4.07	4.11	4.03	4.02	4.08
	4.26	4.16	4.09	4.18	3.93
Q7 教室の環境・設備・機材	4.09	4.10	4.09	4.06	4.12
	4.30	4.14	4.15	4.21	4.02
Q8 授業は有意義だった	4.08	4.15	4.10	4.05	4.18
	4.23	4.22	4.18	4.19	4.08
Q9 出席状況	4.33	4.45	4.44	4.38	4.72
	4.36	4.44	4.38	4.35	4.67
Q10 受講マナー	4.30	4.30	4.39	4.33	4.59
	4.31	4.34	4.37	4.39	4.58
Q11 授業への取り組み	3.82	3.85	3.91	3.87	4.06
	4.09	3.98	4.08	4.10	4.14
Q12 平均勉強時間	2.62	2.98	2.97	3.01	3.42
	2.73	3.11	3.10	3.03	3.43

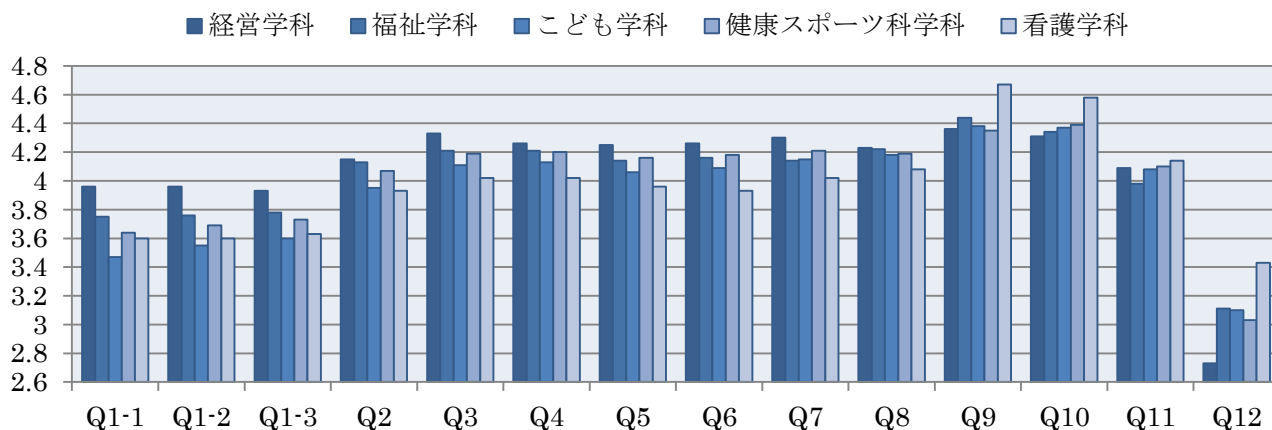


図3 学科別の平均値 (28年度後期)

5. 最近3年間の平均値の推移

	26年度		27年度		28年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1-1 シラバスを読んだ					3.48	3.65
Q1-2 シラバスが役に立った	3.99	4.09	3.96	4.01	3.51	3.68
Q1-3 到達目標を達成した					3.55	3.71
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.15	4.24	4.19	4.18	3.92	4.03
Q3 授業の進度	4.19	4.26	4.24	4.22	4.09	4.14
Q4 教員の話し方	4.19	4.28	4.25	4.23	4.10	4.15
Q5 板書・視聴覚機器	4.15	4.24	4.21	4.18	4.03	4.09
Q6 教員の説明・指導	4.16	4.24	4.22	4.19	4.06	4.10
Q7 教室の環境・設備・機材	4.20	4.28	4.26	4.24	4.09	4.15
Q8 授業は有意義だった	4.20	4.27	4.24	4.25	4.12	4.17
Q9 出席状況	4.54	4.47	4.56	4.48	4.53	4.45
Q10 受講マナー	4.46	4.45	4.51	4.46	4.44	4.42
Q11 授業への取り組み	4.24	4.30	4.29	4.29	3.95	4.09
Q12 平均勉強時間					3.12	3.13

6. 各科目の履修者数別の平均値（28年度後期）（図4）

	10名未満 (N=48)	10~24名 (N=65)	25~49名 (N=78)	50~99名 (N=54)	100名以上 (N=10)	全体
Q1-1 シラバスを読んだ	3.78	3.71	3.63	3.64	3.62	3.65
Q1-2 シラバスが役に立った	3.86	3.74	3.69	3.66	3.62	3.68
Q1-3 到達目標を達成した	3.93	3.77	3.74	3.67	3.65	3.71
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.16	4.12	4.13	3.96	3.91	4.03
Q3 授業の進度	4.30	4.25	4.25	4.08	4.02	4.14
Q4 教員の話し方	4.33	4.27	4.25	4.08	4.01	4.15
Q5 板書・視聴覚機器	4.32	4.22	4.19	4.02	3.99	4.09
Q6 教員の説明・指導	4.32	4.22	4.20	4.05	4.00	4.10
Q7 教室の環境・設備・機材	4.34	4.23	4.25	4.10	4.00	4.15
Q8 授業は有意義だった	4.32	4.28	4.22	4.12	4.02	4.17
Q9 出席状況	4.31	4.36	4.43	4.45	4.35	4.45
Q10 受講マナー	4.29	4.38	4.41	4.41	4.33	4.42
Q11 授業への取り組み	4.18	4.08	4.11	4.07	4.03	4.09
Q12 平均勉強時間	3.43	3.11	2.89	3.17	3.18	3.13

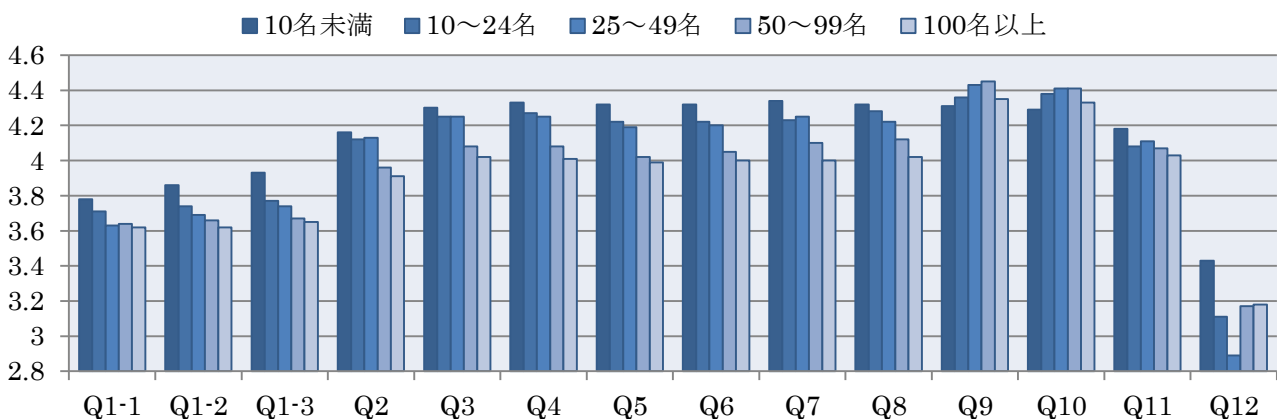


図4 各科目の履修者数別の平均値（28年度後期）

F D 関連図書コーナー新着案内

本学図書館1階の参考図書架に設置されている「FD関連図書コーナー」では、毎年多数発刊される国内のFD関連図書の中から、特に有用なものを選定・購入し、蔵書を充実させています。

今年度新たに購入した図書の主なものは、次の通りです。

自由に閲覧、貸し出しができますので、多数の方のご利用を、心からお待ちしております。

書名	著者名
アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習 アクティブラーニング・シリーズ 第2巻	溝上慎一、成田秀夫
アクティブラーニングの評価 アクティブラーニング・シリーズ 第3巻	松下佳代、石井英真
アクティブラーニングをどう始めるか アクティブラーニング・シリーズ 第6巻	成田秀夫
失敗事例から学ぶ大学でのアクティブラーニング アクティブラーニング・シリーズ 第7巻	亀倉正彦
大学のアクティブラーニング 導入からカリキュラムマネジメントへ	河合塾
アクティブラーニングの技法・授業デザイン	安永悟、関田一彦、水野正朗
大学評価の体系化	大学基準協会、生和秀敏
アカデミック・アドバイジング その専門性と実践	清水栄子
大学教育の在り方を問う	山田宣夫
高等教育の質とその評価 日本と世界	山田礼子
北大教養教育のすべて エクセレンスの共有を目指して	小笠原正明、安藤厚、細川敏幸
ファシリテーションで大学が変わる アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには	中野民夫、三田地真実
アクティブラーニングを創るまなびのコミュニティ 大学教育を変える教育サロンの挑戦	池田輝政、松本浩司
大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン	日本高等教育開発協会他
かかわりを拓くアクティブ・ラーニング 共生への基盤づくりに向けて	山地弘起、岡田二郎
キャリア・プランニング 大学初年次からのキャリアワークブック ワーク課題つき	石上浩美、中島由佳
大学のFD Q&A 高等教育シリーズ 171	佐藤浩章、中井俊樹、小島佐恵子
授業設計 シリーズ大学の教授法1	中島英博
大学生のキャリアとジェンダー 大学生調査にみるキャリア支援への示唆	谷田川ルミ
学修支援と高等教育の質保証 2	山内乾史、武寛子
地域と連携する大学教育の挑戦 愛媛大学法文学部総合政策学科地域・観光まちづくりコースの軌跡	大西正志、竹内康博、佐藤亮子、山口信夫他
「それでも大学が必要」と言われるために 実践教育と地方創生への戦略	平岡祥孝、宮地晃輔
はじめての人のためのアクティブ・ラーニングへの近道	三崎隆
大学入試改革 海外と日本の現場から	読売新聞社
大学生のためのメンタルヘルスガイド 悩む人、助けたい人、知りたい人へ	松本俊彦
大学生のためのキャリアガイドブック Ver. 2	寿山泰二、宮城まり子、三川俊樹
授業力アップアクティブ・ラーニング グループ学習・ICT活用・PBL	市坪誠、油谷英明、小林淳哉、下郡啓夫他

平成28年度 FD推進委員会 活動記録

平成28年 5月19日	平成28年度 第1回委員会 議題 1) 平成28年度活動計画案 2) その他
6月30日	平成28年度 第2回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) その他
7月13～8月5日	学生による授業アンケート調査(前期)
8月8、9日	平成28年度 FD講習会「実用統計講座」 講師 経営学部 経営学科 福井 正康 教授
9月20日	平成28年度 第3回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) FD研修会について 3) その他
10月19日、11月16、30日、12月7日	平成28年度 授業公開「企業実務B」 ～アクティブ・ラーニングに向けて～ 経営学部 経営学科 小玉 一樹 教授
11月17日	平成28年度 FD研修会 テーマ 「大学におけるキャリア教育の現状と課題 ～立命館大学の実践事例の紹介を含めて～」 講師 立命館大学 共通教育推進機構 教養教育センター 副センター長 中川 洋子 教授
平成29年 1月17～2月5日	学生による授業アンケート調査(後期)
2月28日	平成28年度 第4回委員会 議題 1) 授業アンケートについて 2) その他
3月	FD関連図書コーナー(図書館)蔵書追加
3月31日	FDニューズレター第13号発行

編集後記 FDニューズレター第13号をお届けします。今年度からは授業アンケートを、従来のマークシート方式から、Web ベースでスマートフォンやパソコンから回答する方式に変更しました。移行にあたっては、さまざまな不安要素もありましたが、特に支障なく無事に実施することができ、一同ホッとしています。学生たちも、使いなれたスマートフォンで、いつでもどこでも回答できるので好評のようです。また今年度の新しい試みとしての授業公開を行いました。アクティブ・ラーニング型の授業では、企業の若手社員と、学生たちとのやりとりから、授業に関する多くのヒントが得られたように思います。今年度も皆様方の多大なご協力のおかげで、FD活動を進めていくことができ、感謝しております。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(K. K)